

TNVN 第23回 総会と 情報・意見交換会

2016年4月24日(日)、13:00~16:00 社会福祉法人 さぼうと21の会議室で開かれました。

西の羽村市、八王子市から、東は江戸川区、足立区までで活動している正会員団体18団体(21名)が出席しました。

総会は林川玲子(ビバ日本語教室)の司会と代表の梶村勝利(早稲田奉仕園日本語ボランティアの会)の挨拶で総会が始まり、議長を田中卓(八王子国際友好クラブ)、記録人を岡田美奈子(やさしい日本語)にお願いしました。(敬称略)

総会 13:00~14:00

①2015年度

活動報告:代表、会計報告:矢崎理恵(さぼうと21)が説明、次に監査報告:嶋田信子(本所賀川記念館日本語教室)があり、全員賛成で承認されました。

②役員選出・2015年度の役員が引き続き選出されました。

③2016年度

活動計画案:代表、予算案:矢崎が説明、全員賛成で承認されました。新年度の役員、スタッフの紹介で総会は終了しました。

情報・意見交換会 14:15~16:00

東京都は「東京都多文化共生推進指針」を策定し、その冊子が配布されました。届いたのは出席団体の6団体でした。指針の概要(東京都作成)が代表から説明されました。

ここでは各参加者からの活動報告のうち多文化共生の推進に関わる報告内容を拾い出しました。地域の差、立場の違いが浮かび上がっています。

①ボランティア活動に対する行政の認識

- 区市の行政は日本語ボランティア活動についてどの様に考えているのか気にしている。
- 認識が低い。
- 接触したが理解が得られない。
- 日本語ボランティア養成講座を行い人材育成をしているがその後の活動には無関心のような。

- 夜の学習者が多く、支援の必要性を訴え、理解を得たと思ったが助成は他にいった。

②役所・国際交流協会との協力

役所とは

- 接触し活動の情報を伝え、外国語が出来るスタッフを市の依頼で窓口応援をしている。
 - いろいろな支援をうけ、委託事業で子ども支援もやっている。
 - 大学と市が連携し元先生に講師を依頼しボランティア養成講座を開いている。
- 一方で
- 団体との関係は薄く緊密でない。反応が鈍い。支援なし。区役所とは関係ない。

国際交流協会等とは

- ボランティア日本語教室一覧表を作成し、日本語ボランティア活動にも目が向けられてきた。
- タイアップしてオリンピックに向け大使館の協力を受け「ケニアを応援しよう」をYou tubeで発信企画中。
- 場所の確保、パンフレットの作成、図書の購入などの支援がある。

③ネットワーク

- 市内の3団体は定期的に集まって情報交換している。
- 区内の教室(6~7教室)がネットワークを組んでいる。
- 区内に有る教室は30年近く活動をしているところが多いが横の繋がりが無い。
- 区内のボランティア教室との交流はない。

- 児童支援のある学校は1校のみ。ボランティア教室との繋がりは無い。

④多文化共生

- 多文化共生プランが作成されたが連絡・問合せがないので市と話し合いたい。
- 区の多文化共生プランが作成されたが外国人と共に活動する多文化共生とはなっていない。
- 多文化共生の視点から日本語学習支援の意義をもっと理解してほしい。
- 多文化共生に向けた日本語学習支援をしたい。
- 多文化共生についてボランティアがどの程度理解しているか。

⑤情報

- 必要なのは生活支援より「情報支援」で、困った時にどんな情報が欲しいか、それに対応できる情報が大切。分かり易く情報を伝えられるかが課題。

⑥助成金

都の助成金

- 縛りが多く手続きが煩雑で、支援活動に手一杯のなかで膨大な申請資料を作成する時間がない。
 - 50万円以上の事業が対象、半額は自己負担となりその資金を集めるのが大変です。
 - 事業の終了後に支払われる。
- 文化庁の助成金
- 受けている、その助成事業からプラスアルファを出すようにしている。
 - 助成申請の時も徹夜で作業をしてやっと出した。

多文化共生社会の 実現に向けて

東京都生活文化局都民生活部 多文化共生推進担当課長 山崎 利行

2016年1月現在、東京在住の外国人数は約45万人、総人口に占める割合は約3.3%で、人数、割合とも全国一です。また、2015年1月からの1年間だけで3万人以上も増加しており、過去最高の数字となっています。さらに近年は、国籍も多様化してきており、2016年1月現在179か国の国籍の人がいます。このように、東京には様々な民族・宗教・文化的背景を持った外国人が暮らしています。加えて、2015年に日本を訪れた外国の方は、年間約1,974万人と、こちらも過去最高です。2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、今後も東京で暮らす、東京を訪れる外国人はますます増加していくことが予想されます。

東京都は、オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、また、大会後のレガシーとして、「誰もが幸せを実感でき、誰もが住み続けたい、世界一のグローバル都市」の実現を目標として掲げています。

東京が世界をリードするグローバル都市として持続的な発展を遂げるためには、東京で暮らし、働く全ての人々はその能力を最大限に発揮できる環境を整備することが必要です。その中にはもちろん外国人も含まれており、彼らの持つ多様性は、東京を更に発展させていく起爆剤になりえます。これらのことから、外国人が日本人と共に東京の一員として活躍できる多文化共生社会づくりを進めていくことが、これからの時代には求められています。

これまで行政が行ってきた多文化共生施策は、どちらかといえば外国人の生活サポートに関する事業が多くなっていましたが、東京都は今回、これまでの考え方を発展させ、新たなステージに立つ多文化共生社会の実現に向け、「東京都多文化共生推進指針～世界をリードするグローバル都市へ～」を2016年2月に策定いたしました。本指針では、「多様性を都市づくりに活かし、全ての都民が東京の発展に向けて参加・活躍でき、安心して暮らせ

る社会の実現」を基本目標に据え、様々な取組を進めていくことをしています。

指針では、日本人と外国人が共に活躍できる環境整備などを施策の目標として定め、外国にルーツを持つ子供の教育支援や外国人ビジネスパーソン等の生活に関するサポートが重要であるとしています。

東京都としては、これまでも、日本語能力が不十分な外国人にも可能な限り情報が行き渡るよう、生活情報などを英・中・韓で発信するなど様々な取組を進めてきています。しかし、それだけでは、真の共生社会を構築するには不十分です。

外国人が東京、日本での生活を快適に感じ、東京の一員として活躍していくためには、ある程度の日本語を理解できるようになることは、特に長期間日本で生活をする意思のある外国人にとってはとりわけ必要なのではないかと思います。日本語能力が十分でないことが要因となり、学校の授業についていけなかったり、就職先が限られてしまったりすることも多いと聞きます。また、もしも大きな災害が発生した場合、日本語が理解できないために避難が遅れるなど、リスクも高まります。

それゆえ、日本語学習支援に携わるボランティアの皆さんの役割は非常に重要なものであり、皆さんの活動が、東京で暮らす多くの外国人の生活、そして活躍に繋がる第一歩を支えているものと考えています。東京都は今後、区市町村や国際交流協会、外国人支援団体との連携を一層深め、様々な取組を行っていきます。皆さんが多文化共生社会の実現に向けて、更にご活躍されることを期待しています。



グアテマラの人は 陽気でしんせつです

●カルロス ゴンザレス

2015年4月に日本にきました。上智大学大学院の留学生で、現在は府中国際交流サロンで日本語の勉強を頑張っています。



マヤ文明の都市：ティカル

グアテマラは中南米の国です。メキシコの南東にあります。グアテマラは小さい国なので人口は千六百万人しかいません。マヤの文化を始め、コーヒー、大自然、いい天気です。だからグアテマラは永遠の春の国と言われています。北にティカルと言うマヤの一番有名な所があり、この場所は世界遺産になりました。ピラミッドみたいな神社があって、ここの周りにはジャングルがあります。ジャガーや、さる、おおはし、ケツアールと言う国の鳥などがいます。

またアンティグアと言う古い町があります。これも世界遺産です。グアテマラシティから車で1時間で行けます。

そして、季節によって色々な料理が食べられます。例えばグアテマラで死の日と言う休日があって、その日に故人のためにフィアム

ブレと言う特別な料理を作ります。ソーセージや、チーズや、コーンや、レタスとビートなどが入っています。

それに他の伝統的なグアテマラの料理はタマレスです。その料理はいつでも食べられますがクリスマスと正月に必ず食べます。コーン生地で豚肉や、ペッパーや、トマトソースをバナナの葉でつつみます。普通の味はしおからいですが、チョコレートとほしぶどうを入れた甘いタマレスもあります。私はしおからいタマレスが好きです。

グアテマラの人は陽気でしんせつです。おいしいコーヒーもあるので是非グアテマラに来て下さい。

府中国際交流サロン会報誌「くろすろ〜ど」
(2016年4月号)から抜粋

カルロス・ゴンザレス (グアテマラ)

府中国際交流サロン(府中市)



アンティグア農園のコーヒー
グアテマラアンティグア



古都：アンティグア



伝統料理：タマレス



故人のための料理：フィアムブレ

2月21日(日)今年で15回目になる「日本語学習者による日本語発表会」が盛大に行なわれました。今年度は会場を「和光大学ポブリホール鶴川」に変更し、200名以上の方にご来場いただきました。

最初に日本在住の小学生4人による、「子ども笑点」が見事な日本語でスタート。その後、町田国際交流センター、まちだ地域国際交流協会(MIFA)、町田日本語の会で日本語を学んでいる中国、韓国、アメリカ、イギリス、インド、モロッコ、カナダ、フィリピン、オーストラリアの方々、全19名の発表が個性豊かに行われました。その中から、町田国際交流センターで学習されている周妍さんの発表をご紹介します。

町田国際交流センター 日本語教室部会 北脇 智子



地球の温暖化

周 妍 (中国) 町田国際交流センター (町田市)

そして、私のスピーチ「地球の温暖化」です。

私たちは一つの地球に住んでいます。環境からの影響は私たちにとってとても重要です。今、社会が発展して、人類が進歩しています。でも、地球の環境は人類の生活によって、とても悪くなってきました。

5年前に北京に、そして、3年前に上海に旅行した事があり、その時の空気はあまり悪くありませんでしたし、西安の空気もきれいでした。でも、最近、特に中国の北京や上海や西安などが大変なスモッグ状態で、生活と仕事がとても不便です。歩いていても10m先は見えません。それに、私の故郷西安は週3日ぐらい空気がとても悪いです。毎日マスクが必要です。PM2.5が主な原因です。

地球の温暖化は世界の問題です。生態環境が破壊される理由は人類が木を切ったり、焼却したり、工場は汚染水を流したり、自動車は排気ガスを排出したり、生活の中では電気やガスやエアコンの使用などが汚染原因になっています。

地球の温暖化が社会の課題です。毎年6月5日は世界環境日です。去年の11月30日に、気候変動パリ大会が開催されました。各国の首脳が出席して、気候変動に対して新しい合意が締結されました。

以前に、私は番組の中で環境についていろいろ話しました。毎年1回、中国語で「禁車日」、日本語では「車の禁止日」が西安の主要な街で行われます。車が走る事ができず、電車に乗ったり、歩いたりしなければなりません。それと毎年、中国語で「地球の一小时」があります、それは、毎月3月の最後の土曜日の夜20:30から21:30まで、各家庭では電気を消します。200名の支援者が集まるグループがあります。自転車に乗って、環境保護マークが付いている旗を持って、西安の城の上まで走ります。この運動が健康にいいと宣伝します。

これからの、私たちの生活で何をしたらいいでしょうか。車の運転を控えたり、エアコンの使用を少しでも減らしたり、健康にいい生活方法を選択しましょう。

有難うございました。

今回、私のスピーチの題名は「地球の温暖化」です。まず、スピーチの前に、自己紹介をします。

私の名前は周妍です。去年の1月1日に中国の西安から来ました。日本に来る前に、私は西安教育テレビのアナウンサーで、番組の司会者でした。仕事は16年間して、最後の3年は主任でした。日本に来る半年ぐらい前から、CCTV中学生番組を担当し、青少年交流活動を中心にしました。日本でも、機会があれば日中青少年交流活動をしたいと思っています。

日本に来た後で、友達に私に「あなたは今までの仕事は話が中心だったけど、今はほとんど話さない」と言われました。本当に、日本語の勉強は難しいです。私は日本語が上手になりたくて、去年の7月から、町田国際交流センターとMIFAで日本語を勉強しています。先生にいろいろ教えて頂きました、感謝します。これからもよろしくお願いします。

日本手話の世界に 触れて

日本語教師 金子 広幸

2015年の7月から私は江戸川ろう者協会の日本語講演を仰せつかっています。参加者は、手話講師、また手話通訳者をしている人などで、日本語の周辺の問題に興味を持っている熱心な方々です。今回本稿作成にあたり、ご理解ご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

講演内容は、手話講師の立場から「日本語のアウトラインを学ぶ」というコンセプトで、日本語の特質、音韻、漢語・外来語などの語彙、文法の構造やその歴史の変遷、文体、表記、方言などのテーマを扱っています。私は日本語教師の立場から、外国人日本語学習者たちがどのように学んでいるかや教室活動の一部、日本語社会の問題点を織り交ぜ、話題を提供しています。

講座の時には、手話通訳をお願いし、私も講演の進め方や表現方法については、ろう者の参加者の方や主幹の中山先生にアドバイスをいただきながら進めました。講座を進めていくうちに様々な気づきを得ました。読者の皆さんにもご紹介しましょう。

聴者とろう者の響き合い

読者の皆さんは「手話」をどのくらいご存じでしょうか。その名称を「日本手話」と言っています。それに対して音声言語の方を「日本語(以下こ

の意味では「」付で)」と呼んでいます。日本手話では、ニュアンスを伝える時には、顔の表情や、動作の緩急で示す比重が高いのですが、「丁寧さを大切に考える考え方は「日本語」とよく似ています。例えば、誰かを誘うときには、両手の人差し指を胸の前で一緒にして、行きたい方向に向かって前に突き出す動作をするのですが、目上の人を誘うときには、姿勢を低くし、上目遣いや肩すぼめをしたり、指を丁寧にゆっくり動かしたりするのです。日本語教育・支援でも、参考になりそうです。

日本語教育とろう者教育

以前このニュースレターで「て形の歌」を紹介しましたが、講演でも紹介しました。動詞「待ちます」の「て形」には、小さい「つ」が入って「待つ」となることが、音声を介さないろう者の方々には理解しにくいことだったらしく、「この「て形の歌」はろう者教育のどこかの場面で役に立つのではないか」という反応を得ました。

また、音韻を扱った時には、ろう者の方にも実感していただけるように、チューインガムを使いながら「構音知識(音がどのように口や鼻の中でできるのか)」を紹介しました。講話法で、発話にチャレンジした経験のあるろう者の方からは、「ろう学校の先生にもこのような構音知識があれば、もう少し楽に習得ができたかも

しれない」という反応もありました。

言語としての日本手話

「日本語」には同音異義語が多くあります。例えば、聴者が「こうてい」と聞くと、文脈で判断したり、「学校の校庭?」と例で確認したりしますね?でも日本手話ではこのことは問題になりません。それぞれの「こうてい」に対応する手話表現が存在するからです。講演では、手話通訳の方と一体となって話をするのですが、自分の話した音声言語と比べながら日本手話を見ていると、あっという間に覚えてしまいます。手や指の動きを組み合わせる表現が、私にはとても覚えやすく感じました。例えば「皇帝」なら、古代中華の皇帝がかぶっていた「冠冕」というかんむりの形をあごの下で紐を結ぶ動作で示し、そしてその「冠冕」の前に玉すだれがかかっているしぐさを加えるのです。

今、ろう者教育と日本語教育、日本手話と「日本語」は、お互いに交流ができればいいと感じ始めています。この文章をお読みの皆さん。ぜひお互いの世界を結び合う架け橋になっていただきたいと思います。

訂正

前号の紙上講座「2分38秒で頭と心を使って…」の記事中に、JR西日本とありますが、JR東海の間違いでした。訂正いたします。

■生まれてからです

大泉学園さくら日本語教室 (練馬区)

松下 知香子

2015年10月、大泉学園さくら日本語教室は産声を上げました。ボランティア歴20年のベテランを中心に、夕方6時から8時過ぎまで、小学校の教室開放を利用して活動しています。

夜間の教室ですから、現在の学習者は全員、日中仕事をしています。中には、早朝から働いて、仕事が終わると、夕食も食べずに教室へ来る学習者もいます。たまに、小さなあくびが出るのも、仕方がないことかもしれませんね。

教室を開いた当初、中国人、ベトナム人の他は、殆どがイギリスなどのヨーロッパ出身でした。5か月経って、他のアジアからの学習者も増えました。

レベルも、入門から初級、中級、N1取得の上級者まで様々ですが、それぞれ少人数のグループで学習しています。能力試験対策や、上級者には、読書や日常会話で更に日本語のスキルアップを図るようにしています。

昨年末には、ショートスピーチや、レベル別の日本語ゲームなどで、3か月という短期間の学習成果を見事に披露してくれました。こうした活動も、学習者

との楽しい交流の一つです。

できたてホヤホヤの教室ですから、講師不足は否めません。地域で長く活動を続けていく意欲のある方には、ぜひお手伝いをお願いしたいところです。

日本語を学びたいという外国人のために、少しでもサポートできたらと発足した、さくら日本語教室は、これからの教室です。



会員団体紹介

Nice to Meet You

nice to meet you

■日本語学習の場が、外国人の方々の心のよりどころに！

武蔵村山日本語の会 (武蔵村山市)

井戸 芳

「さようなら」「お疲れ様でした」学習を終えた外国人の方々は、キラキラした笑顔で帰っていきます。今日もまた新しい日本語を学んだという満足感、ボランティアとの楽しいおしゃべり、悩みを聞いてもらって少し軽くなった心。それぞれの思いが元気な笑顔につながっています。

武蔵村山日本語の会は、武蔵村山市民センター内のボランティア・市民活動センターで、水曜日の午前と金曜日の夜間に活動する、ボランティア25名程のこじんまりしたサークルです。それでもボランティアはみなさん意欲的です。仕事の分担にも積極的に手を挙げてくださり、昨年は広報に志願してくださった方もいて、かねてから念願だったホームページが立ち上がるなど、一致団結

活動を支えています。最近では若手の会員や男性会員も増え、会員構成に厚みも出てきました。

中には親子でボランティアをされている方もあり、また、お母様が学習者で息子さんがボランティアだったり、奥様が学習者でご主人がボランティアだったり、いろいろな形でご家族での参加もあります。



学習者とは言えば、中国の方では日本人の配偶者や、残留孤児のご家族。ベトナムからは研修生、実習生。日系ブラジル人。そのほか韓国、フィリピン、パキスタンやエルサルバドルなど、様々な国の方たちが集います。基本マンツーマンの授業で、学習者のニーズに合わせて、日常会話なり、日本語能力試験の勉強なりを、ボランティアが工夫を凝らして勉強しています。そんな中で解らないことがあると別の机に助け船を求めたり、また授業が終わると立ち話に花が咲いたり、学習者同士の交流も温かく和気満堂という言葉がぴったりです。日本語の上達を願うのはもちろんのことですが、日本語学習の場が、外国人の方々の心のよりどころとなれば幸いです。

※()内は、支援者が付け足しました。

日本語ボランティアの現場から

学習者の声

日本にくるって

「異文化コミュニケーション講座でのスピーチ」

S・T／ロシア

日本語ボランティア「めいめい」(足立区)



日本のぶん
かは ほんとうのきもちをみ
せないと わたしは おも
っています。

なんねんかまえ テレビでみたことを
はなします。

こどもが ははおやの手の中で しに
ました。ははおやは なかなくて テレビ
のスタッフに おれいしているのをみてつ
よく おもいました。

日本人のころは、むかしから ださな
かったから いまも うまく み
せることができないとおもいます。
(だからアイススケート、バレエの
せんせいは ロシアからきて
おしえているのです。)

日本の言葉の発音では いっ
ぱい にているものがあり、まち

がえることがあります。

でんしゃで おじいさんに せきをゆず
りたいときに おじいさんに さわってくだ
さい(すわってください)といってしまう、び
っくりして、おじいさんは 逃げてしまった
のです。

そのほか おしんこ や びょういん、
おしぼりなど たくさん ことばが ありま
す。

最後に ここで(めいめい教室)ペンき
ようさせてもらうこと ありがたくおもいま
す。

これからもよろしくおねがいます。



ボランティア の声

松岡 栄子
日本語ボランティア「めいめい」(足立区)

地域との交流と日本語能力試験 合格を柱として活動しています

足立区日本語ボランティア「めいめい」は、地域の方々と外国人の方々との交流、異文化理解の一助になればとの思いより教室を始めました。

当初は、外国人の方々に日本語を教えることに精一杯でしたが、日本人スタッフのほうが「異文化を知り、外国人の方々から、たくさんの事を教えてもらっていること」に気づかされ、そのような有益な経験をスタッフだけでなく、地域の方々にも知っていただきたく、めいめい公開教室を毎年開いてきました。

現在は、異文化コミュニケーション講座からクロスカルチャーなどの講座を2回ほど開催し、地域の方々に外国人理解と多文化共生の楽しさをお伝えしています。

また、不定



期ですが、新聞を発行し40号になり、ブログの閲覧数は、300を越すようになりました。

めいめい教室のもう一つの特徴は、日本語能力試験に取り組んでいることです。外国人の方々にとって、仕事の上でも学業の上でも、試験に合格し資格を得ることは、大変な励みになっています。中国人の趙さんは、言葉のハンデで、仕事も断られていましたが、2級試験に合格し、介護ヘルパーの資格を取得しました。また今月から小学校で、中国人の一年生の補助として、ボランティアで頑張ってくれています。

いろいろな苦労があつての教室運営ですが、それを超える楽しみがある限り、粛々と続けていければと思っています。

◎2016年度 役員・スタッフ・運営委員

- 代表 梶村 勝利
(早稲田奉仕園日本語ボランティアの会・新宿区)
- 事務局長・会計 林川 玲子(ビバ日本語教室・港区)
- 会計 矢崎 理恵(社会福祉法人 さぼうと21・品川区)
- 会計監査 嶋田 信子(グッドナイト日本語・江東区)
- スタッフ 大木 千冬(町田日本語の会・町田市)
- 〃 小川 伶子(初歩日本語・練馬区)
- 〃 岡田 美奈子(やさしい日本語・江東区)
- 〃 神 歩(江戸川にほんご交流会B・江戸川区)
- 〃 山内 眞理(多摩市国際交流センター・多摩市)
- 〃 床呂 英一(まちだ地域国際交流協会・町田市)
- 〃 鶴田 環恵(ニュースレターレイアウト・在宅)
- 〃 大滝 敦史(ホームページ管理・在宅)
- 〃 松川 彩子
(やさしい日本語・ホームページ問合せ対応・江東区)
- 運営委員 坂本 弘一(かけはし・足立区)
- 〃 渡辺 紀子(まちだ地域国際交流協会・町田市)
- 〃 田中 卓(八王子国際友好クラブ・八王子市)
- 〃 小野 美恵子(グッドナイト日本語教室・江東区)

第23回総会・意見交換会 出席者の団体名

グループあだち(足立)／江戸川にほんご交流会B(江戸川)／やさしい日本語(江東)／早稲田奉仕園日本語ボランティアの会(新宿)／NPO法人IWC国際市民の会(品川)／社会福祉法人 さぼうと21(品川)／本所賀川記念館日本語教室(墨田)／日本語サークル「わかば」(世田谷)／初歩日本語(練馬)／ビバ日本語教室(港)／プラチナ日本語教室(港)／にほんごの会くれよん(目黒)／八王子国際友好クラブ 日本語グループ(八王子)／日本語ボランティア翼の会(羽村)／府中国際交流サロン(府中)／まちだ地域国際交流協会(町田)／町田日本語の会(町田)／武蔵村山日本語の会(武蔵村山)



TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVN の会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通して、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日午後2時～4時
第5金曜日／休み

◆場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線)一出口 B2b 飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。メール・電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしております。

〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

◆TEL：03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

◆FAX：03-3235-0050

◆E-mail：webadmin@tnvn.jp

◆URL：http://www.tnvn.jp/

◆郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

◆新会員紹介

八王子国際協会 (八王子市)

◆会員数 (2016年5月13日現在)

正会員：85団体

個人協力会員：16名

団体協力会員：1団体

賛助会員：4団体

◆編集／大木 千冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、神 歩、床呂 英一、林川 玲子、山内 眞理

◆レイアウト／鶴田 環恵

◎TNVNホームページの

「ボランティア日本語教室ガイド」を 最新のデータに！

TNVN Network News No.91 (2015.9.11 発行)で“TNVN-HP「ボランティア日本語教室ガイド」お問合せから”として学習希望者からの問合せ文を紹介しました。皆さんの教室宛に“問い合わせ”が届いていますか。それに対する回答と参加状況は如何でしょうか。最近は問合せの数が増加しています。

学習希望者が希望する教室を検索するには、

メールアドレス、連絡先、

活動内容が最新のデータである

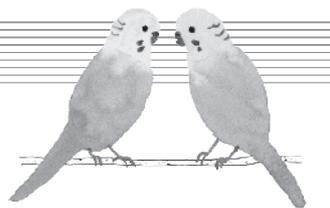
事が不可欠です。一人でも多くの学習者が望む場所で日本語学習ができるようご協力をお願いします。

掲載内容の変更がありましたらその都度 TNVN事務局 (webadmin@tnvn.jp) へ連絡をお願いします。

ご協力を
お願いします

column

縁あって



今年2月から TNVN 事務局のお手伝いをする事になりました。私が参加しているグループも TNVN の会員ですが、年に数回発行されるニュースレターが届いた時だけ、我グループも TNVN の会員なんだと感じた程度で、TNVN は私とは無縁の、遠い遠い存在でした。

穏やかに明けた 2016 年。毎年初詣に行く深川不動産で引いた御神籤は末吉でしたが、普通の生活を続ければ、今年も平穏な一年が過ぎせる運勢でした。処が、1月末近くに飛び込んで来た O 女史からのメールで、今年の運勢は一変してしまいました。平穏の筈の運勢が大波乱に変わり、あっと言う間もなく、遠い遠い存在だった TNVN

事務局のスタッフの役目を仰せつかってしまったのです。

2月、3月、4月と、諸先輩のご指導の下、事務局のお手伝いをしている内に、知恵も知識も無い私が役目を果たせるのは、唯一、ニュースレターの発送作業だと云う事が分かりました。60歳を超えた爺さんが若手と云われる超高齢化組織 TNVN 事務局で、力仕事を暫く続けるのも惚け防止に繋がると考え、TNVN 事務局諸先輩の平均年齢位までは作業が続けられたらと願っております。

(Jin)